

第11回

「ことば」フォーラム in 熊本 【ことば探検・ことば発見】

2002年8月28日（水）午後1時～5時

熊本市国際交流会館 6Fホール

共催：国立国語研究所，NHK熊本放送局

後援：熊本県教育委員会，熊本市教育委員会

《第1部》 午後1時～2時45分

総合司会 NHKアナウンサー 田中智美
主催者代表挨拶 国立国語研究所長 甲斐睦朗

話しことばの豊かさと円滑なコミュニケーション

国立国語研究所の調査研究，およびNHK「ふるさと日本のことば」の成果を提供しながら，会場の皆さんと「ことば」について話し合います。

★「話しことばの豊かさ—暮らしのことば再発見—」

吉岡泰夫（国立国語研究所）・村上敬一（神戸松蔭女子学院大学）

★「敬語が豊かなコミュニケーション—熊本の敬意表現調査から—」

杉戸清樹（国立国語研究所）・吉岡泰夫（国立国語研究所）

★「外国人とのコミュニケーション」 菅井英明（国立国語研究所）・イライザ・ミーカー（西合志町教育委員会）・ハビエル平八郎川邊スリタ（YMCA国際センター）

《休憩 15分》

《第2部》 午後3時～5時

「ことばビデオ」を活用した総合的な学習

国立国語研究所の「ことばビデオ」を紹介し，それを活用した総合的な学習の実践報告をおこないます。（次の①②を2つのホールで同時進行します。）

① ことばビデオ『ことば探検・ことば発見』を活用した小中学校の総合的な学習（6Fホール）

司会：相澤正夫（国立国語研究所）

報告：八間川隆彦（八代市立第五中学校 校長）

八代市立第五中学校の生徒の皆さん

コメンテーター：山田尚子（牛深市立深海中学校）・丹生裕一（熊本大学大学院）

甲斐睦朗

② ことばビデオシリーズ『相手を理解する』を活用した高校の総合的な学習（4F会議室）

司会：杉戸清樹（国立国語研究所）

報告：濱田賢明（熊本県立鹿本高等学校 校長）

熊本県立鹿本高校の生徒の皆さん

コメンテーター：菅井英明・イライザ・ミーカー・ハビエル平八郎川邊スリタ

国立国語研究所 ことばフォーラム in 熊本

《第1部》 話しことばの豊かさと円滑なコミュニケーション

◆ 趣旨

- (1) 新しい方言, 由緒ある方言, あたたかい敬語, さらに外国語まで共に生きている, ふるさとの話しことばの多彩な広がり, 参加者の皆さんといっしょに探検し, 人と楽しく話をするためのことばのはたらきを再発見します。
- (2) 豊かな言語生活を営み, いろんな人と円滑に会話をする力を得るきっかけをつくります。

話しことばの豊かさ - 暮らしのことば再発見 -

吉岡 泰夫

(国立国語研究所)

yoshioka@kokken.go.jp

◆ 豊かさ再発見 - 熊本の話しことばの4つの特長 -

私たちの豊かな言語生活は, 話しことばの豊かさと, それを活用した円滑なコミュニケーションによって成り立っています。熊本は, 話しことばの豊かさ, 特に, 方言や敬語の豊かさでは全国有数の地域です。熊本の話しことばは, 次の4つの特長を持っています。

- ☞ 特長1: 古典にみられる雅言が, 今も多彩に生きている。
- ☞ 特長2: 豊かな敬語が, 円滑なコミュニケーションに役立っている。
- ☞ 特長3: 若者によって方言がリニューアルされ, 活気を保っている。
- ☞ 特長4: 外国語に由来する方言が多彩に生きている。

☞ 特長1: 古典にみられる雅言が, 今も多彩に生きている

この特長は, すでに, 江戸時代の国学者, 本居宣長が「たまかつま」という著作の中で, 称賛していることです。奈良・平安時代の古典にみられる雅言(ミヤビゴト=みやびなことば)を, 肥後の人にはだれもがふつうに使っている, という話を肥後の門人から聞いて, 古典文学や日本語の歴史を研究していた宣長は感動しています。

雅言の例として, 宣長があげているのは, 「見ゆる」「聞こゆる」「さゆる」「たゆる」などの下二段活用の動詞と, 「たんがく」(蛙のこと。今は「たんぎやく」とも言う)という名詞です。これらは, 今の熊本でも, 例えば, 「なんの見ゆっと?」「この携帯は, よう聞こゆるばい」「埋め立ててしまえば, 大方, たんがくもどじょうも絶ゆっどー」など, ふつうに聞かれることばです。

《 熊本方言に生きる古典の雅言 》

今でもよく使われる古語由来のみやびな方言を, 奈良時代から中世末期までの古典に見られるものにしばって見ていきます。これらのみやびな方言は, 共通語に置き換えがたい

表現力を持つもので、熊本の話しことばの豊かさの一翼を担っています。

「あゆる」=実や花が自然に落ちる。汚れが落ちる。「この洗剤は、ようアユルばい」

『万葉集』〈大伴家持〉「安由流(アユル) 実は 玉に貫きつつ 手に纏(ま)きて」

「たんぎやく」=蛙(カエル)の総称。殿様蛙(トノサマガエル)。奈良時代から使われていた古語「たにくく」に由来。『古事記』「多邇具久(たにくく)」。『万葉集』「多邇具久(たにくく)」「谷潜(たにくく)。「たにくく」→「たながく」→「たんぎやく」

「あじろ(網代)」=網を入れる場所。漁場。「船ばアジロに当つとは、GPSさな」。

『万葉集』「宇治人のたとへの網代、我ならば・・・」。元々は漁具のこと。

「かづき(潜)」=潜水漁。もぐり。「カヅキでサザエのあばかん獲れたっさい」

『万葉集』「ささなみの志賀津の海人は我なしにカヅキはなせそ波立たずとも」

「ごたる(如)」=～のような。～したい。「観音さんのゴタル慈悲深か人」「早う行こうゴタル」。平安時代に成立した漢文訓読語「如(ごと)くある」「如ある」が語源。『西大寺本金光明最勝王経平安初期点』第1巻「妙高山王のゴトクアル菩薩」。

「とぜんなか(徒然)」=何もすることがなく退屈なこと。手持ちぶさたなこと。さびしいこと。「誰も帰って来ん、トゼンナカ盆休みばい」。もともと漢語出自の「徒然(トゼン)」に由来。平安初期から『凌雲集』(814年)、『小右記』(982年)などに用例。

『太平記』「軍を止められければ、徒然(トゼン)に皆堪兼て」。

熊本では、古語「徒然な」に「カ語尾」が付いて、「とぜんなか」となった。

『徒然草』(鎌倉時代)のように「徒然」を「つれづれ」と読むようになったのは、平安中期以降である。

「ちょうじょう(重畳)」=ありがとう。この上もなく嬉しい。「こら一、チョウジョウ」

平安時代から使われていた「重畳」に由来する。中世頃から「この上もなく喜ばしいこと」の意味で使われる。浄瑠璃『夏祭浪花鑑』「是は重畳」

「良か・なか・美しか」(カ語尾形容詞)=良い・無い・美しい(共通語ではイ語尾)

古語の形容詞「良カリ」「無カリ」「美しカリ」など、カリ活用の語尾の「リ」が落ちて、「～カ」で終わるカ語尾形容詞ができた。『古今集』〈在原業平〉「世の中にたえて桜の無かりせば春の心はのどけからまし」。『今昔物語』に「良カト言ヒテ」とあり、平安時代にはカ語尾形容詞が出来ていた。「良カリ」→「良カ」

「ふのよか」=運が良い。運命の巡り合わせが良い。ラッキー。「大吉ば引いたけん、今年はフノヨカばい」。神仏の守り札、護符の「符」から転じて、運命や巡り合わせを言うようになった。室町時代末期(1593年)に、天草で出版された『天草版伊曾保物語』に、・・・刀を抜いて斬ろうとしたら、「狼のふのよかりけん」、その身はずれて縄を切られ・・・、とある。「ふのよかり」→「ふのよか」

「おろ～」=～ない。あまり～ではない。わずかに～。少し～。減少する。英語のlessに同じ。「オロ良か(less good)」「オロ甘か(less sweet)」「オロ食う」「オロ痛うな

りました」。鎌倉時代の『宇治拾遺物語』には、「髪などもオロオロ有る頭」（髪なども少ししかない頭）とある。

「はいよ」=ください。「こるばハイヨ（これをください）」「教えてハイヨ（教えてください）」
「はいりようする」=いただく。「こーら、良かもんばハイリョウシました」

鎌倉時代から使われていた謙譲語の「拝領」に由来する。『源平盛衰記』（鎌倉時代後期）に「かしこまってこれを拝領す」とある。

「むぞなげ」=いたましい。不憫。気の毒。かわいそう。「まあ、ムゾナゲ」

「むぞらしか」=かわいらしい。「まあ、ムゾラシカお孫さんの、のさんなはりましたな」

古語「むぞう」【無慙】（「むざん（無慙）」の変化した語）に由来する。『宇治拾遺物語』に「泣きまどふさま、〈中略〉、あはれにむざうに覚えしかども」とある。

「なんさま」=とにかく。なにしろ。はなはだ。たいそう。「なんさま良う釣るる」

古語の副詞「なにさま【何様】」に由来する。『天草版伊曾保物語』に、「なにさま魚が多いぞ」（なにしろ魚が多いぞ）or（はなはだ魚が多いぞ）とある。

「むしゃんよか（武者ん良か）」=凛々しく勇ましい。見栄えがいい。かっこいい。「わあー、ムシャンヨカ車ば買うたねえ」。武士が鎧・兜を着けた姿、また、武士としての振る舞いを言う「武者振り」に、「～が良い」が付いたもの。『日葡辞書』（1604年）に「ムシャブリガヨイ」とある。熊本ではカ語尾化して「むしゃんよか」となる。

「見ゆる・聞こゆる・受くる・燃ゆる」などの下二段活用動詞

平安時代の古語と、今の熊本方言を活用表で対比してみると、ほとんど同じであることが分かる。古典文法と熊本方言文法の共通点である。

古語

語	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
受く	うけ -ず	うけ -たり	うく 。	うくる -者	うくれ -ば	うけよ !
燃ゆ	もえ -ず	もえ -たり	もゆ 。	もゆる -物	もゆれ -ば	もえよ !

熊本方言

語	未然形	連用形	終止形	連体形	假定形	命令形
受くる	うけ -んかい	うけ -たばい	うくっ 。	うくる -者（もん）	うくれ -ば良か	うけろ !
燃ゆる	もえ -んかい	もえ -たばい	もゆっ 。	もゆる -物（もん）	もゆれ -ば熱か	もえろ !

☞ 特長2: 豊かな敬語が、円滑なコミュニケーションに役立っている

《 好感を持たれる方言敬語 》

ー あたたかい敬語で円滑なコミュニケーション ー

敬語の豊かさでも、熊本は全国有数の地域です。方言敬語が多彩で、レパートリーが広いこと、そして、実際に人と話すときに、方言敬語と共通語敬語がともによく使われることが、特色としてあげられます。これは、いろいろな人と円滑なコミュニケーションをはかるために、大切なことなのです。特に、生まれ育ったふるさとの、丁寧で、あたたかで、気持ちの良い方言敬語を使うと、相手から好感を持たれて、心が通い合うコミュニケーションが成り立ちます。

よその地域の人に対して、方言敬語を使って、気持ちが通じるのだろうか、ご心配の向きもあるかもしれません。たしかに、よその人は、耳慣れない敬語の細かな翻訳には多少手間取るかもしれません。しかし、敬語を使っていることは分かります。丁寧に敬意を込めて話そうとする、その気持ちは十分に伝わるものです。そうやって、お互いに、ことばの多様性を認め合い、ことばの違いを乗り越えて、気持ちを通じ合おうと努力することで、円滑なコミュニケーションが成り立つのです。

《 多種多様な敬語の使い分け 》

ー 「ようおいでなりました」から「国研の衆の来らいた」まで ー

方言敬語が多彩でレパートリーが広いということは、いろいろな対人関係の場面で、その場面にピッタリの表現を選択できることになります。敬語は敬意の高いものをたくさん使えばいいというものではありません。使い過ぎると、相手との距離が遠くなってしまったり、慇懃無礼になったりすることがあります。場面に応じて、適度な敬意の敬語を使い分けることが大切なのです。

熊本の方言敬語が、いかに多彩か、まず尊敬語からみていきましょう。用例は、「来た」「来い」と言うときの方言敬語を使った表現です。

●尊敬語

- | | |
|---------|---------------------------------------------------------------|
| おいでなはる | 用例: 「ようオイデナハリました」「また、オイデナハリまっせ」 |
| おいでくだはる | 用例: 「ようオイデクダハリました」「また、オイデクダハリまっせ」 |
| おいでる | 用例: 「ようオイデました」「また、オイデまっせ」「また、オイデ」 |
| くだはる | 用例: 「よう来てクダハリました」「また、来てクダハリまっせ」
「また、来てクダハラんか」 |
| なさる | 用例: 「よう来ナサったですね」 |
| なはる | 用例: 「よう来ナハリました」「また、来ナハリまっせ」 |
| なる | 用例: 「よう来ナったですね」「よう来ナンました」(芦北)
「また、来ナンまっせ」(芦北)「また、来ナイ」(県東部) |
| なはんもす | 用例: 「よう来ナハンモシた」(球磨) |
| なんもす | 用例: 「よう来ナンモシた」(球磨) |
| なす | 用例: 「よう来ナシたですね」(天草) |

- なっせ(依頼) 用例:「また、来ナッセ」
なすな(禁止) 用例:「ひとりで来ナスな、お孫さんば連れて来ナッセ」
す(らす・さス) 用例:「よう来らシたですね」(天草)
「また来らすとばお待ちしとります」(天草)
※「す(らす・さス)」は、天草では高い敬意を保っている。
はいよ(依頼) 用例:「また、来てハイヨ」

●親しみを込めて使う親愛の尊敬語

- す(らす・さス) 用例:「夏休みだけん、友達の泊まりがけで遊び来らシた」
る・らる 用例:「国研の衆(し)の来ラッタ」(県南部)
やる 用例:「国研の衆(し)の来ヤッタ」(球磨)

●尊敬の人称代名詞

- あ一た・あた 二人称代名詞。「あ一た」の方が敬意が高い。
し 三人称代名詞。衆、方、方々。用例:「若っかシも、敬語は上手か」

熊本には古語由来の謙讓語があります。全国を見渡すと、謙讓語を持っている方言は稀ですから、このことから、熊本は全国有数の方言敬語発達地域と言えるでしょう。

●謙讓語

- はいりようする(いただく) 用例:「こらあ、良か物ばハイリョウシました」
あがる(参上する) 用例:「今夜、お宅にアガリまっしゅう」
まかっでる(参上する) 用例:「あつかましゅう、マカッデました」(球磨)
あげもす(さしあげる) 用例:「冷たか水ばアゲモスでなあ」(天草・球磨)
たもる(いただく) 用例:「こら一ご馳走、遠慮なしタモりますで」(球磨)

あいさつにも、丁寧で、あたたかで、むしゃんよか表現があります。

●あいさつ

- ちようじよう(ありがとう) ちようじようだんだん(ありがとう)
ごぶれいします(失礼します) ごぶれいしとります(ご無沙汰してます)
ごぶれいですばってん(失礼ですが)
すんまっせんばってん(すみませんが) 用例:「スンマッセンバッテン、道ば教えてはいよ」
がまだしなはりますなあ(御精がでますねえ)
よかひよりですなあ(良い天気ですねえ)
よかうるいですなあ(良い潤いですねえ)

《自然物・動物も尊敬語で待遇》

ー「雷さんの落ちらした」ー

方言敬語発達地域の熊本では、自然物や動物も、親愛の尊敬語で待遇することば遣いの習慣があります。そんな習慣のない地域の人には、丁寧でやさしい物言いと感じられます。

- 「雷さんの落ちらした」「雷さんの落ちらいた」(雷さんが落ちられた)
「おてんとさんのようてらすなあ」「てんとさんのようてらる」(太陽さんがよく照られるなあ)
「イルカの宙返りせらいた」「牛の鳴きよらす、子ども産ますとだろ」「犬の帰って来らった」

☞特長3:若者によって方言がリニューアルされ、活気を保っている

《若者による伝統的な方言の復活》

－「あくしゃうつ」「むしゃんよか」は今や若者語－

戦後、全国的に共通語が普及するにつれて、各地の特色ある方言は衰退の一途をたどりました。特に、生まれたときにはテレビがあった若い世代は、共通語をうまく話すので、方言を使わなくなるのではないかと思われました。東日本は実際、そうなっています。

ところが、熊本では、都市部の若者層によって、伝統的な方言が復活されるという新しい変化が起こっています。熊本市の若者層が、「あくしゃうつ」「むしゃんよか」「泣っかぶる」「まーごっ」といった伝統的な方言を、どれほど使っているか、平成5年(1993年)と平成9年(1997年)の熊本市調査で見ると、20～30代では85～95%、10代では70～95%でした。よその地域では、年齢が若くなるにしたがって、衰退の一途をたどる伝統的な方言が、熊本市では、若者層で大きく復活し、今や若者語の様相を呈しているのです。

このような若者の方言志向は、かつて、自分の方言にプライドを持たず、共通語にあこがれた若者であった私には、うらやましい限りの余裕にみえます。若者たちは、あたりまえに使える共通語の面白味のなさ、陳腐さに飽き足りないのです。むしろ、特色ある方言の方が、斬新で、面白く、仲間内で受ける表現なのです。

《若者によってリニューアルされる方言》

－「しにかぶる」「だごひん」「びっくりどー」－

熊本の若者は、伝統的な方言を復活させるだけでなく、それを土台に使って、新しい方言を作り出しています。「しにかぶる」「だごひん」「ごちー」など、次々と新しい若者方言が生み出されています。その作り方は、伝統的な方言、共通語、若者方言を自由自在に混ぜ合わせて、新しい混交形を作るという、ちょうど、新作の混ぜご飯を作るようなやりかたです。三つのパターンをみていきましょう。

【伝統的方言】		【若者方言】		【新しい混交形】
「あくしゃうつ」(困り果てる)	+	「ばり」(非常に)	=	「あくしゃばりうち」
「あくしゃうつ」(困り果てる)	+	「だご」(非常に)	=	「だごあくしゃ」
「～かぶる」(～しそうになる)	+	「しぬ」(倒れる)	=	「しにかぶる」
「～ごっ」(～のように)	+	「おに」(非常に)	=	「おにんごっ」
【若者方言】		【共通語】		【新しい混交形】
「だご」(非常に)	+	「ひんしゆく(饜蹙)」	=	「だごひん」
「だご」(過密)	+	「乗り」(乗車)	=	「だごのり」
【伝統的方言】		【共通語】		【新しい混交形】
「～どー」(～だろう)	+	「びっくり」	=	「びっくりどー」

新しい混交形は、特色ある方言の独自性や個性は頑固に保持しながら、そこに斬新な表現力を加えていこうとするもので、「もっこす(頑固者)」と「わさもん(新しがり屋)」が同居する熊本人気質の為せる業と思います。

こうして熊本方言は若者によってリニューアルされ、活気を保っているのです。

☞特長4: 外国語に由来する方言が多彩に生きている

《 実は外国語だった 》

暮らしの中の話しことばに、すっかり定着しているので、方言と思っていたら、実は外国語だった、ということばが熊本には多彩に生きています。鎖国の時代があったとはいえ、昔から国際交流が盛んだったことをうかがわせます。

ことばが輸入された時代の古い順に、ポルトガル語、オランダ語、中国語、英語と、伝来事情を探りながら、みていきましょう。

《 ポルトガル語に由来する方言 》

「ばんこ」=長いす。ベンチ。縁台。踏み台。bancoに由来。

「ぼーぶら」=カボチャ。abóboraに由来。

「ばってら」=渡し船に使う小型ボート。舳(はしけ)。救命ボート。bateiraに由来。

「ばーてるさん」=神父さん。padreに由来。

《 オランダ語に由来する方言 》

「ふらほ」=大漁旗(進水式で新調する)。旗。「ふらふ」とも言う。vlagに由来。

ポルトガル語、オランダ語は室町時代の末頃に、ヨーロッパからもたらされた南蛮文化に伴って、九州西岸部に伝えられ、広がったものです。

天草では、室町時代はポルトガル船が、支岐(苓北町)や大江(天草町)や河浦(河浦町)の港にしばしば入港し、ポルトガル人宣教師(トレス神父やアルメイダ神父など)が天主堂(崎津など)を建て、布教のため永住したりしました。しかし、江戸時代初期に天草島原の乱(1637年)が起こり、ポルトガルとの交流は途絶えます。

《 中国語に由来する方言 》

「ろーはっせん」=落花生。「落花生(ルオーファースェン)」に由来。

「しゃんす」=ガールフレンド。愛人。「相思(シァンスー)」に由来。

江戸時代後期には、天草に、唐船(からふね・中国船)がしばしば渡来しています。天草高浜の庄屋・上田宜珍(うえだぎちん)が書いた『上田宜珍日記』には、文化・文政の頃(1800年代前半)に「唐船一艘、崎津へ昨日漂着」「唐船崎津湊出帆」などの記録が目立ちます。中国語は、その頃に天草に伝わったものです。

《 英語に由来する方言 》

「ごーへい」=前進。行け。go aheadに由来。

「ごすたん」=後進。逆推進にしてブレーキをかけよ。go asternに由来。

「れっこー」=錨をおろせ。漁具を海中に放て。let goに由来。

漁師さん、船乗りさんが、船を動かし、作業をするときに使う指令のことばです。実は、世界の船乗りにも共通の海洋英語なのです。go aheadは航空管制でも使われています。

天草には、大正時代に、当時は最先端の焼き玉エンジン(イギリス製か?)を据えた機械船の売り込みに来て、技術指導をしたエンジニアが伝えたようです。

国立国語研究所 ことばフォーラム in 熊本 《第1部》

若者が生み出す方言の活力

村上 敬一

(神戸松蔭女子学院大学)

熊本方言の活力

テレビなどのマスメディアや、交通・通信網の発達によって、全国各地の方言は共通語化が進んでいます。「方言の衰退は仕方のないことだ。」と半ばあきらめている地域もあります。しかし、熊本方言は元気です。古い方言を復活させ、新しい方言を生み出しながら、絶えず変化し続ける活力を持っています。

一つの例を挙げてみましょう。共通語の「変だ」にあたる熊本方言は、この数十年の変化をみただけでも、以下のような変化の過程を経ながら新しい方言形を生み出しています。

i 「ひゅーな (にゃ) ・ひょーな (にゃ)」 → ii 「ひゅーなか ・ひょーなか」 →
iii 「へんなか」 → iv 「へんない」 → v 「へんにゃー」

i から ii への変化は、「ひゅーな」に「か」がついた形です。この「か」は「良か」「きつか」という形容詞の語尾につく「か」と同じです。「か」の造語力が旺盛で、形容詞ではない「ひゅーな」にも「か」がついてしまったのでしょうか。熊本方言における「か」語尾の勢力、活力を端的に表しています。

ii から iii への変化は、「ひゅーなか」の「ひゅー」の部分が、共通語の「へん(変)」に交替したものです。語尾は「か」のままですから、共通語と熊本方言の混交形になっています。共通語の影響を受けながらも、根強く「か」語尾が残っています。

iii から iv への変化では、「か」語尾が共通語の「い」語尾に変化しています。10数年ほど前の若い女性によって、使い始められたことがわかっています。若い女性の共通語志向による方言変化です。ただし、「へんな」も「い」語尾も共通語と同じですが、組み合わせた形式の「へんない」は熊本方言です。「へんない」は共通語として意識されているのか、それとも熊本方言として意識されているのか、興味のあるところです。

iv から v への変化では、「へんない」の「ない」が「にゃー」に変化しています。伝統的な熊本方言では、「近い」が「ちきゃー」、「甘い」が「あみゃー」のように「い」語尾が「～ゃー」の形になることがあります。「へんない」という語形が共通語的にとらえられたために、伝統的な方言形を志向した、やはり10数年ほど前の若い男性が使い始めた語形です。

若者の方言志向・伝統的な方言形の復活

10数年前から、熊本の若者が衰退しかけていた伝統的な方言を復活させ、仲間うちではやらせて盛んに使用するという現象がみられます。

例： あくしゃうつ

「今日 ケータイと 財布ば 落として あくしゃうったばい。」

まーごつ

「隠れて 弁当ば 食いよったら まーごつ おごられた。」

「あくしゃうつ」や「まーごつ」などの伝統的な方言が、若者のコミュニケーションに受け入れられたのはなぜでしょうか。私は、以下のような理由が考えられると思います。

- ① テレビなどで使用される共通語は、陳腐でおもしろみがないから。
- ② 若者が、伝統的な方言を古くさい格好悪いものとみるのではなく、斬新でインパクトがあるものとしてとらえたから。
- ③ おもしろみがあって、インパクトのある表現(=伝統的な方言)を使用する者が、仲間うちのコミュニケーションを盛り上げる主役になれるから。

あくしやうつには、若者特有の使い方もあります。「あくしや」と短くすることで、よりインパクトの強い表現を志向した結果です。

例: あくしや

「毎日 雨ばっかで あくしや だけーん。」

「いきなり 試験されたら あくしやどー？」

まーごつには、「まご」「だご」「ぼご」のような“兄弟”の語があります。「まご」と短縮することで、やはり強調の度合いを強める働きを持たせています。「だご」「ぼご」は、「まご」からさらに変化したものです。若者語のサイクルの速さもここに表れています。若者語は、斬新さが命です。ですから、長い期間同じ語形を使うことは「だごひん」(とてもひんしゆく)なのです。

若者が生み出した新しい方言

これまでに掲げた「～やー」の形になるものは、「へんにやー」「あみやー」「ちきやー」などでした。これらの語に共通するのは、それぞれの「い」語尾の形が[-a i]で終わるところです。つまり、[-a i]で終わる語が「～やー」と変化するのが、伝統的な熊本方言の音変化のルールだといえます。

へんない [henn-a i] → へんにやー いたい [it-a i] → いちやー
ちかい [tik-a i] → ちきやー

ところが、若者語には、このルール通りに変化をしないものがあります。「おしやー」(遅い)「あたらしやー」(新しい)という新しい方言形です。「遅い」「新しい」の語尾はそれぞれ[-o i] [-i i]です。

おしやー [o s-o i] あたらしやー [a t a r a s-i i]

若い世代は[-a i]だけでなく[-o i] [-i i]で終わる語までも「おしやー」「あたらしやー」と変化させます。新しい方言変化のルールを作り出したのです。

これからの熊本方言

熊本の若者はこれからも伝統的な方言を受け継ぎながら、さらに新しい方言を生み出していくものと考えられます。熊本の若者にとって「方言=古くさい」というのはあてはまりません。むしろ、熊本の若者は方言に魅力を感じています。若者たちが斬新でインパクトのある表現を志向し続ければ、熊本方言も活力を保ちながら日常生活の中に生き続けていくでしょう。私は、もうすぐ熊本で生活した年月よりも、熊本を離れてからの年月のほうが長くなりますが、進化し続ける熊本方言を頼もしく思いますし、これからの熊本方言がどのように変わっていくのか楽しみです。

国立国語研究所 ことばフォーラム in 熊本 《第1部》

敬語が豊かなコミュニケーション — 熊本の敬意表現調査から —

杉戸清樹

(国立国語研究所)

敬語だけでない、豊かな敬意表現

1. 「敬語」と「敬意表現」

- (1) うやまい、へりくだり、あらたまりなど、人への気持ちを表現する言葉がある。
日本語だけではなく、外国語にもいろいろある。
日本語の中でも、全国共通語（標準語）だけでなく、各地の方言にもそれぞれ豊富。

- (2) うやまいやへりくだりの気持ちを専門に表現する言葉が、「敬語」と呼ばれる。
例 熊本の敬語 「～ナハル」「～クダハル」「～シテクダハルマッセンカ」
「～シテハイヨ」など
共通語の敬語 「～ナサル」「～クダサル」「～シテクダサイマセンカ」
「～シテクダサイ」「～シテクダサイヨ」

- (3) うやまいやへりくだりなどだけでなく、人への思いやりや遠慮などを表す言葉は「敬語」のほかにもいろいろある。「敬語」は使わなくても、ほかの言葉づかいで人へのさまざまな気持ちを表現している。

例 共通語 「急で悪いけど、ほかの用事ができちゃったので、約束の時間、1時間だけずらしてくれない？」

→ いわゆる敬語は一つも使っていない。しかし相手に申し訳ないと思う気持ち、丁寧に頼もうとする気持ちは十分に伝わる。

→ 下線を引いた部分を使うのと、言わないのとを比べてみよう。

→ こういう言葉づかいを「敬意表現」と呼ぼう。（国語審議会答申 平成12年）

2. 熊本での敬意表現調査から

御協力：熊本の高年層（老人クラブ），壮年層（青年会議所），若年層（高校生）

質問：こんなときには、どんなふうに言いますか？

例：ふだん行きつけのお店で買い物をしました。相手は、顔見知りの店員さんです。

ほかの店で別の用事をすませる間、かさばる手荷物をあずかってもらうように頼むとき、どんなふうに頼みますか？

回答例 (熊本の高年層の回答者)

- ① ほかに用事のありますけん、これちょっと預かってはいよー。
- ② ごめんばってん、まいちよ行かなんけんが、ちょっと置かせとって。
- ③ ちょっとそこまで行ってきますけん、すんませんけど、これ置かせてはいよ。
- ④ すんません、ちょっとそこまで用事のあるけん、この荷物かさばるけん、すみっこちょっと置いといてはいよ。

→ 下線部分をすべて外して言ってみたら、どんな感じがするか？

「これ、預かってはい」

「置かせとって」

「置かせてはいよ」

「置いといてはいよ」

→ 敬語は使われているが、「言葉が足りない」「相手に失礼」。

→ 下線部の働き _____ (頼むことの原因や自分の事情を説明する)
_____ (申し訳ないという気持ちを言う)
_____ (頼みごとが大したことではないと、やわらかく言う)

→ こういう働きをする言葉づかいが、年齢によらず、性別によらず、たくさんの回答者からいろいろに教えてもらった。

→ 「敬意表現」は、日常の暮らしの中で、生き生きと豊かに使われている。そして、それが、人と人とのコミュニケーションを円滑にしている。

【付】印象に残った言葉づかい

「御無礼(ごぶれい)ですばってん、・・・」

【参考文献】 「敬意表現」について

- 『言葉に関する問答集 - よくある「ことば」の質問』
(新「ことば」シリーズ14 国立国語研究所 平成13年3月)
- 『敬意表現を考える』
(『日本語学』20巻4号 明治書院 平成13年4月)

国立国語研究所 ことばフォーラム in 熊本 《第1部》

外国人とのコミュニケーション

菅井 英明
(国立国語研究所)

1. 外国人の積極的な社会参加の必要性

外国人は自国にいなくても、その国の人と同じように社会的活動に積極的に参加するのが良いという考え方があります。このような考えは「社会的統合」と呼ばれ、OECD（経済協力開発機構。国際機構の一つ）（1997）が推奨し、ドイツ、オランダなどヨーロッパ諸国で採用されている考え方です。

《社会的活動の例》

①外国人による商工会・ボランティア組織の結成：群馬県大泉日伯商工会。ブラジル人経営による16店が加盟。日系人商店の宣伝と、外国人救済のためのボランティア活動も行っていきます（群馬県大泉町。日本労働研究機構 1997, p.8）。

②PTA：「外国人父兄の地域や PTA との関わりは、日本人と同等であり学校として特別な対応は行っていない」（群馬県大泉町。日本労働研究機構 1997, p.5）

③職場でのレクリエーション：見知らぬ外国で生活することはストレスがたまったりホームシックを引き起こすので、「外国人労働者に係る安全衛生基本対策のあり方について」（中央労働災害防止協会：外国人労働者安全衛生対策検討委員会報告）では、事業主に対し、軽スポーツなどレクリエーションを行うよう推奨しています（全国労働基準関係団体連合会・中央労働災害防止協会 1994, p.147）。

④日本人の友人の存在：滞在期間が一年以内の場合は、日本人の相談相手が「いる」と答えた外国人は55.0%、「いない」と答えたのは45.0%ですが、滞在期間が5年以上の外国人の場合、「いる」と答えたのが80.3%。「いない」と答えたのが19.7%となります（浜松市在住外国人298人の場合。桑原 2001, p.174）。

2. 外国人が住みよいと感じ定住を志向するところは、歴史的に海外と接触をもった土地や、工業地域です。

歴史的背景を持つ地域 福岡、神戸、横浜

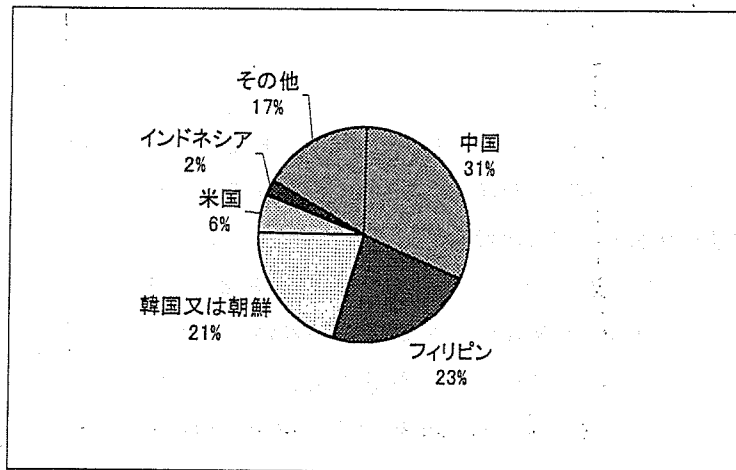
工業地域・・・浜松（静岡）、大泉・太田（群馬）、川崎（神奈川）

熊本も外国との歴史的な接触を多く持っていた土地です。その痕跡は、熊本方言に残る種々の外国語由来の語彙に見ることが出来ます。

- ・ごすたん ← 英語 “Go astern!”
 - ・ばんこ ← ポルトガル語 “banco”
 - ・ろーはっせん ← 中国語 落花生 天草
- (秋山正次・吉岡泰夫 1991)

現在の熊本の外国人定住状況

・外国人登録者数 5,580人(平成11年12月末日現在、県国際課調べ。外国人登録の対象となる方は、原則として日本に90日以上滞在する予定の方々で、海外からの観光客は含みません。)



熊本県ホームページ『熊本県の国際化～データ集～』をもとに作成

・熊本県を訪れた外国人観光客総数 41万5千人強(平成10年数値)(平成9年熊本県観光統計表による)

3. 就労を含めて社会的生活を送る際に必要なコミュニケーション能力

時に、外国人にとってはミスコミュニケーションが取り返しのつかない事態になることがあります。

≪「痛い」「助けて」等がいえなかったため職場で怪我をした際救出が遅れた例≫

ある工場で日系ブラジル人が休憩時間中に設備の中の加工屑を取り除こうとして、左手を機械にはさまれたが、一人作業であったことと、彼が助けを求めた声が工場の人たちには猫の声のように受け取られ、救出が遅くなった(全国労働基準関係団体連合会・中央労働災害防止協会 1994,p88)。

・「事業主は、外国人労働者の日本社会への対応の円滑化を図るため、外国人労働者に対して日本語教育及び日本の生活習慣、文化、風習等について理解を深めるための指導を行う

とともに、外国人労働者からの相談に応じるように努めるものとする」(外国人労働者の雇用・労働条件に関する指針第3・5・(2)。労働省)

・主婦など日本人との接触が少ない定住者向けのボランティアが盛んです。

4. 古くからの定住者が、新しく来る外国人定住志向の方の面倒を見たり、ロールモデル(見本となるモデル)となることがあります。

・援助組織の結成 日伯商工会(群馬県大泉)

・成功モデルとしての先輩の例

ベトナム難民としてボートで上陸した両親のもと、長崎のキャンプで生まれた私は、自分の両親の苦労や歴史的背景について、詳しく知ることが怖くて、ずっと目をそらせてきました。そんな私が高校3年生の春、ある先生から「もっと自分に自信を持った方がいいよ」とアドバイスを受け、自分のことをあらためて見つめ直してみようと思いました。そのための方法として、難民事業本部関西支部を訪れ、日本に定住するインドシナ難民に関する資料を調べ、職員の方から話を聞くという作業をしました。その研究がきっかけで、大学に合格することができました。今は自分自身をありのままに受け止めて、両親に感謝し、自分がベトナム人であることを誇りに感じています。大学入学後は、ベトナム語も含めていろいろなことを勉強し、将来は日本とベトナムの経済協力に貢献できるような仕事に就きたいと考えています。後輩のみなさん、おそれずに自分自身をしっかり見つめて、自信をもって自分らしく力を発揮してください(ド・ヴァン・ルック「ベトナム人であることの誇り『定住者の声 No.8』(財)アジア福祉教育財団 難民事業本部)

〔参考資料〕

秋山正次・吉岡泰夫 1991 『暮らしに生きる熊本の方言』 熊本日日新聞社

熊本県ホームページ『熊本県の国際化～データ集』

<http://www.pref.kumamoto.jp/cultural/links/global08.html>

桑原靖夫 2001 『グローバル時代の外国人労働者 どこから来てどこへ』 東洋経済新報社

全国労働基準関係団体連合会・中央労働災害防止協会 『外国人労働者の労務・安全衛生管理』 1994

ド・ヴァン・ルック「ベトナム人であることの誇り『定住者の声 No.8』(財)アジア福祉教育財団 難民事業本部 <http://www.rhq.gr.jp/know/kurasu.htm>

日本労働研究機構 1997 『外国人労働者が就業する地域における住民の意識と実態』 No.96

労働省 1993 『外国人労働者の雇用・労働条件に関する指針』

OECD 1997. "Trends in International Migration. 1996." Paris.

「ことば」フォーラム in 熊本 《 第2部・第1会場 》

ことばビデオ【ことば探検・ことば発見】を活用した
小学校・中学校の総合的な学習

相澤 正夫

(国立国語研究所)

ことばビデオ「ことば探検・ことば発見」は、小学校・中学校の児童・生徒を対象とし、新しい学習指導要領の総合的な学習の時間等に活用されることを考慮して制作しました。児童・生徒の言葉への興味と関心を喚起し、日本語の豊かさや的確な表現の魅力に気づかせるような内容となっています。その《概要》と《活用法》は下記のとおりです。

今回は、まず、このビデオ作品を皆様に全体を通して視聴していただきます。続いて、このビデオ作品に触発されて「ことば探検・ことば発見」を実践した中学生のみなさんの報告を聞きます。それを受けて、指導する立場からのコメントを現場の先生からいただき、ことばを軸とした総合的な学習のあり方について、いっしょに考えたいと思います。

《 概 要 》

国立国語研究所 ことばビデオ
【ことば探検・ことば発見】(VHS 46分)
付:『解説書』(B5版 126ページ)

ビデオ作品の内容・学習効果
実践編「気象科学館で調べよう」(23分)
ことばに興味と関心を持って「ことば調べ」
を実践するときのモデルを提供しています。

- ☆ 課題発見のきっかけ
- ☆ 調べ方の話し合い
- ☆ 気象予報士に取材する
- ☆ 身近な大人に取材する
- ☆ 報告・発表・話し合い
- ☆ ことば探究への発展

日常の素朴な疑問をきっかけに課題を見つけ出し、探究のテーマを決めて、ことばを調べる。そうすることによって、日本語の豊かさ、不思議さ、奥深さが実感できます。また、その過程をとおして、情報収集、話し合い、取材(インタビュー)、報告・発表など、総合的な学習に必要な言語活動を身につけることができます。

素材編「あんな日本語・こんな日本語」(23分)
実際の「ことば調べ」への糸口となるように、日本語のさまざまな側面を素材として提供しています。

- ☆ 思いやりのある日本語
- ☆ 元気の良い日本語
- ☆ 表情豊かな日本語
- ☆ 想像がふくらむ日本語

人への心くばりを表現する日本語、作業や運動をするときの威勢のよさや活気にあふれる日本語、心情や意図を伝える表情豊かな日本語、詩的表現によって想像がふくらんでゆく日本語など、ことばやコミュニケーションのさまざまな側面に関心を持ち、その魅力に気づくきっかけが得られます。

『解説書』の内容

- ☆ ビデオと解説書の活用にあたって
- ☆ シナリオ 実践編・素材編
- ☆ 自然科学と暮らしを結ぶことば
- ☆ 話しことばコミュニケーション
- ☆ 豊かな日本語
- ☆ 指導の手引
- ☆ コラム

教育映画祭「優秀賞」受賞

このビデオ作品は、第48回(2001年)教育映画祭(日本視聴覚教育協会主催・文部科学省後援)において優秀賞を受賞しました。

《ビデオと解説書の活用にあたって》

1. ビデオの活用にあたって

●総合的な学習の時間に向けて

☆児童・生徒が興味を持つテーマを見つけて、自発的に探究するための導入として活用できます。

☆情報収集、話し合い、取材(インタビュー)、報告・発表などに必要なコミュニケーション能力を身につけるモデルとして活用できます。

☆実践編は、「科学のことば」を調べる場合に限らず、さまざまな対象の探究や調査に応用できます。

☆素材編は、ことばやコミュニケーションのさまざまな側面を素材として提供していますので、総合的な学習の時間で取り組むテーマを見つける糸口になります。

☆言語研究への入門、特に、話しことばコミュニケーション研究や教育への導入に活用できます。

●総合的な学習の時間以外の教科学習に向けて

☆話しことばコミュニケーション、音声言語、科学のことば、社会方言、詩の朗読などを、音声と映像でとらえているので、国語の時間にも活用できます。

☆実践編では気象情報のことばと合わせて、気象科学も取り上げているので、理科の時間にも活用できます。

☆素材編では卸売市場や海上保安庁など、さまざまな職域のコミュニケーションを仕事と関連付けて取り上げているので、社会の時間にも活用できます。

●教育研究・教師研修に向けて

☆総合的な学習の時間への取り組みを検討する、教育研究や教師研修に活用できます。

☆児童・生徒のコミュニケーション能力を育て

る話しことば教育の研究に活用できます。

●活用にあたっての工夫

☆実践編・素材編を通して視聴すると46分かかりますので、一括視聴にこだわらず、必要な部分を分割して視聴するなど、柔軟な活用の工夫が求められます。

☆実践編・素材編ともに、ビデオ視聴だけでは理解が行き届かない高度な内容が含まれていますので、必要な部分を分割して視聴し、その前後で十分な解説を加えるなどの工夫が求められます。

☆ビデオ視聴に合わせて、解説書を利用した教材を準備するなどの工夫が求められます。

2. 解説書の活用にあたって

●ビデオ視聴の指導書としての活用

☆充実した内容になっていて、解説書だけでも「ことば探検・ことば発見」の自律学習の指導に活用できます。

●言語教育の入門書としての活用

☆話しことばコミュニケーション能力を育てる言語教育の入門書として活用できます。

☆ことばを探究する自律学習の指導参考書としても活用できます。

●言語研究の入門書としての活用

☆話しことばコミュニケーション研究の概説、音声言語、専門語、社会方言などについての解説が充実していて、言語研究やコミュニケーション研究の入門書としても活用できます。

☆言語研究のための調査や情報収集の方法についての入門書としても活用できます。

「ことば」フォーラム in 熊本 《第2部・第1会場》
ことばビデオ『ことば探検・ことば発見』を活用した言葉に関する調査研究
中間報告
八代市立 第五中学校 3年生

1 地域紹介

- ・八代市の東部
- ・球磨川の南岸
- ・自然陸地と干拓地
- ・高田焼き、高田みかん

2 調査までの経緯

- ・選択教科の調査研究コース。
- ・「普段の生活の中で使う言葉」や「地元に残る独特の言葉」に着目。
- ・いくつかのグループに分かれて調査、研究を進めてきた。

3 調査・研究の実際

(1) 身体の部位チーム 湯野 彩、寺田麻奈美

<テーマ設定の理由>

おばあちゃんがよく使う「へきがいたか」→「へき」って何、「へき」ってどこ？
どうやら「肩」らしい・・・。
身体の部位をどのように言うか調べてみた。

<方法>

インターネット→なかった。
親に聞いた。
ばあちゃんに聞いた。 身近な人にインタビュー。
先生方にも聞いた。
書籍『日本国語大辞典』

<身体の部位の言い方>

つら びんた ほった べろ へき ぽんぽん じご しりべた またくりゃ
ひざぼうず あど あしのはら
ごら ずす あぎ ぎりぎす まい めっけん かんげ ごちゃ えだ ももたぶら
ひざわら むこすね
※30、40代の方々に尋ねたところ、ほとんどの言葉を知っておられました。

<使い方>

へきがいたか (おばあちゃんとかがよく使う。)
びんたばくらすっぞ (親が時々言う) (最近はいいい子にしているので言われたい)
べろばやけどした (茶碗蒸し等を食べたりした時)
よこっぱらんつた (これは体育の授業で走っている時などに自分たちもよく使う)
じごんふとかね (おじいちゃんなどは女性に対して使う時がある)

<疑問>

どうしてこのように呼ぶようになったのかな？

<予想>

- いたあし=扁平足 (板のように平べったい様子からかな?)
- ぽんぽん=お腹 (たたくとポンポンと音がするからかな?)
- よこっぱら (腹の横だからかな?)
- えだ=腕 (木の枝のように横に伸びているからかな?)
- ひざぼうず (伸ばした時に顔のように見えるからかな?)

<それぞれの言葉の意味と整理>

よく使う	つら (顔) ほっぺた (ほおべたが変化した言葉) びんた (ほおを平手で打つ) べろ (舌) よこっぱら (横腹) じご (おしり) あど (かかと・きびす)
時々使う	かんげ (髪の毛) へき (肩から背中にかけての部分) 足のはら (足の裏)
知っているが使わない	はだきや (はだか) ぽんぽん (腹・・・幼児語) ひざぼうず (膝頭、膝こぞう) またくりゃア (またぐら)
知らなかった	ごら (頭) えだ (腕) ずす (額) まい (眉が変化した言葉) あぎ (上あご、あごの古い言い方) めっけん (眉間) ぎりぎす (つむじ) ごちゃ (体、背中) ももたぶら (ふともも) ひざわら (膝の裏) いたあし (扁平足) つと (ふくらはぎ) しりべた (臀部・・・尻の肉の多い部分) むこすね (ふくらはぎの前面)

<気づき>

- ・中には標準語と思っていたものもあった。
- ・標準語より方言で言う方が迫力がある。
- ・八代に住んでいながら、意外に知らない体の部位の言い方がたくさんあった。
- ・自分たちは今回、調査をしたのでたくさんの言い方を知ることができたが、このまま忘れ去られる言葉もあったかもしれない。
- ・年代によって使う言葉が違えばコミュニケーションがとりにくくなるし、会話が減り、会う回数も減る→同じ地域(家)に住みながら触れあいや交流が少なくなると思った。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんと話していて、分からない言葉などがあったら調べてみると、もっとコミュニケーションがとれるし、会話がはずむだろうと思った。

(2) 接頭語(頭につける言葉)・語尾の言い方チーム 山崎 望、松本智枝美

<テーマ設定の理由>

テレビ(地方番組のインタビュー)とかで熊本の人が話しているのを聞いているとおもしろい=他の番組(言葉)と比べて変な感じがする・・・方言に興味を持つ。

よく会話の中で「つつこける」とか言うけど、その「つつ」は何?どういう意味?

<調査方法>

インタビュー
方言の載っている本 「やっちろべん」八明会
国語の先生に聞いた
「必携古語辞典」

※はじめはあまりないと思っていたが、たくさんあった

<分かったこと>

頭につける言葉

つん ひん ふん つつ ひっ
どん きゃ あん あっ いっ
どけ しっ せん ほっ そっ
なん どっ はち ある

語尾の言い方

とらす たつ らす けん でん
どん るる にゃん こつ ごつ
なっせ ど どま くりゃ かい
たい ばい さん れん らん
もん ばん とる どの どか
げな かな さした てちゃ

<使い方>

「ひっ」かける 「どん」ぴしゃり 「ひん」のむ
そぎゃん「かい」 やらっ「さん」 ぬさ「らん」

<疑問>

なぜこんな言葉をつけるようになったのか?

<予想>

自分の気持ちをもっとリアルに伝えたい?
コミュニケーションのひとつ(親しみが感じられる・話しやすい)
話を大げさにする
話をおもしろくする
雰囲気をもりあげる

※国語の授業で「助動詞」を習っていたので、語尾の言い方を文法的に調べてみた。

<分かったこと>

とらす=とる+す
たつ =過去の言い方「たの」→「たつ」
△らす =ら+す・・・している(敬語)
けん =～だから
でん =～でも
どん =～でも
○るる =～される(自発 受け身 可能 尊敬)・・・古語が方言に残っている
△にゃん=～しなければならない→にゃん(短縮)
こつ =～こと
ごつ =～こと、～のように
なっせ=～なさい
ど =～だろう(推測)
どま =～くらいは、～たちは(～ども→～どま)
くりゃ=～くらい
かい =～ですか? 「か」は疑問
たい =断定(～だよね)
ばい =～です
さん 「さ」=する 「ん」=否定
れん 「れ」=自分が 「ん」=否定
らん 「ら」=自分が 「ん」=否定
もん =～だもの
△ぼん =～ねばならぬ(義務) 「ば」=ねば、「ん」=ならぬ
とる =～ている
どる =～でいる
△どか =～だろうか
○げな =～そうだ(聞いた話)、～らしい・・・古語
△かな =～ですか(～だろうか)
さした=～された 「さし」=敬語 「た」=過去
てちゃ=～ても

<気づいたこと>

- ・△印の「にゃん」、「ぼん」、「どか」などは本来の言葉を短縮してあるものもある。
- ・○印「るる」、「げな」などのように古語がそのまま残っている場合もあった。
- ・単におもしろおかしくするためだと思っていた言葉が、文法的に必要であったり、古語が残っていたりと、ちゃんとした意味があった。

(3) 大鞘 (おざや) 名所チーム 貞永真澄、村並 薫

<テーマ設定の理由>

運動会の団体演技とする「大鞘名所(民謡)」は八代平野を干拓する時に歌われたと聞いた。しかし、歌詞の意味が分からなくて、これは「方言」かなと思い、これについて調べようと思った。

「大鞘名所」の歌詞

アー ヨイナガ ヨイナガ コラシヨイシヨイ コラシヨイ アー 一、名所名所と 大鞘が名所 名所ナ 大鞘 コラシヨイシヨイ 名所にゃ水がない ヨイナガ ヨイナガ ドッチモヒュトリ ヨンニヨハ入ルンナ 入レタタブツダセ コラシヨイシヨイ コラシヨイ アー 二、ことしはじめて ご新地に出たりゃ 名所ナ ぶりの コラシヨイシヨイ いないみちやまだ知らぬ ヨイナガ ヨイナガ 道バタカライモ クジラニヤヌスカイ クジツタカライモ カマデニヤヌスカイ コラシヨイシヨイ コラシヨイ アー 三、ぶりのいないみち 知らずばおそゆ 名所ナ 腰ば コラシヨイシヨイ かがめて唄で立つ ヨイナガ ヨイナガ オドンガエ来テミヤ 高屋敷 足ナカハイテモ セキダノネガスル コラシヨイシヨイ コラシヨイ アー 四、お菊はどんなやつ だいばどんにほれて 名所ナ だいば コラシヨイシヨイ 子もおる妻もおる ヨイナガ ヨイナガ 道バタダルケン茶沸キヤテ待ツトル 茶オケハ何カイ 梅ボシ大根 コラシヨイシヨイ コラシヨイ アー 五、お菊は大鞘に だいばどんな小屋に 名所ナ 晩の コラシヨイシヨイ 出合いは井樋のそで ヨイナガ ヨイナガ 磯バタ石タイ カヤセバガネタイ ガネノナマ焼キヤ 食傷ノモトタイ コラシヨイシヨイ コラシヨイ コラシヨイシヨイ コラシヨイ

<調査方法>

- インターネット・・・あったけど詳しくは載ってなかった。
- 担当の先生に歌詞をもらった。・・・意味はよく分からなかった。
- 詳しい方を紹介してもらった。・・・鏡町の戸田先生(電話でインタビュー)。

<分かったこと>

- ・おざや名所は天草の松島町(阿村)から出稼ぎにきた人たちによって歌われた天秤棒をかつぎ、潟を担う仕事で、作業の仕方を歌詞に入れ、労働の効率化をはかった。
- ・水もなく日中に運ぶので夏は暑く、海なので冬は北風が強くて寒く、とてもつらいので慰めあったりしながら、自然に歌われた。
- ・きつい仕事をしながら愚痴をこぼしていたところ、現場監督の「だいば」どんと出稼ぎにきていた「お菊」さんとのうわさ話がひろがり、愚痴をこぼすよりそっちの方が話題として楽しいから「おざや名所」を恋物語に仕立て上げた。
- ・しかし、この「だいば」どんと「お菊」さんの話はおざや名所の中心になるものではない。
- ・あくまでもおざや名所はつらい仕事をお互いに慰め合うものである。

<疑問>

農作業の時に使う言葉はないかな？

<調査方法>

- 校区の農家の方を尋ねてインタビュー。
- 方言をよく使う先生にインタビュー。

<分かったこと>

- 「青ちぎり」3～4月にかけて青いトマトのまま収穫する。
- 「摘果」いくつもトマトがなると小さいものしか育たないので、いくつかは摘む。
- 「完熟」木で熟れたもの。
- 「追熟」青ちぎりして、市場に持って行って、店に出るまでに熟れたもの。
- 「こびる」おやつ時間
- 「さなぼり」休日
- 「よけ」休憩
- 「がまだす」頑張る
- 「たばこまん」おやつ(茶摘み、田植えなどの手伝いの時におばあちゃんが言わす)
例:「たばこまんすっばい」「たばこまんもってけ」

(4) スポーツのかけ声チーム 清水将伍、竹本良介

<テーマ設定の理由>

自分たちはサッカー部に所属しているが、サッカーをしている時に普段は使わない言葉(かけ声)がある……。そんな言葉(かけ声)にはどんなものがあるか、どんな意味があるのかを調べてみた。

<調査方法>

同級生にインタビュー。
顧問の先生にインタビュー。
インターネット
書籍 スポーツ関係の本、英和辞典

<分かったこと>

サッカー「マーク」mark=印、記号
相手に自由にプレーさせない。
「クリア」clear=片づける
流れを変えるために遠くに蹴る。
「ターン」turn=まわる
敵がいないので前を向いてプレーしろ。
「マノン」man on=人が近くにいる。
気をつけてプレーしろ。
バレー「チャンス」chance=よい機会。
この機会を生かそう、自分たちのペースに。
「ワンカット」one cut=一度で切る。
サーブ権をすぐに取り戻そう、集中しよう。
野球等「ドンマイ」don't mind=気にするな。
エラーやミスを気にせず、次のプレーに集中しよう。

<疑問>

なぜ、このような言葉(かけ声)を使うようになったのか?

<予想・気づいたこと>

- ・ゲーム中は余り長い言葉で話している時間はない。
- ・できるだけ短い言葉で伝えたいことを簡潔にあらわすため。
- ・勝利を目指すためにやるべき事を確認し、お互いに集中し合うため。
- ・監督やコーチから「声を出せ」とよく言われていたが、なぜ「かけ声」が必要なのかはよく分からなかった。今回の調査・研究で「かけ声」の大事さに気づいた。
- ・スポーツのゲーム中は限られた時間の中で、自分たちの気持ちを伝えることがいかに大切なのかを知ることができた。

「ことば」フォーラム in 熊本 《第2部・第2会場》

「ことばビデオ」シリーズ <豊かな言語生活をめざして> ①

『相手を理解する 言葉の背景を見つめると・・・』

文部科学省特別選定・2002年教育映像教材選奨優秀賞

○ このビデオの目的・ねらい

毎日の生活の中で言葉によってコミュニケーションをする際に、私たちはことば遣いにとまどったり、違和感を感じたりすることがあります。時には、誤解したり行き違いを起こしたりもします。

このビデオでは、コミュニケーションのとまどいや誤解などの例を具体的に取り上げました。そして、とまどいや誤解がどうして起きるのか、そこにはどんな背景や理由があるのか、さらに誤解や行き違いを避けるためにはどうしたらよいのかを、色々な場面を例にして考えてもらうことを目指しました。

ひとことと言えば、コミュニケーションで「相手を理解する」ということのむずかしさと大切さについて考える手がかりをつかんでもらうことが、このビデオの目的です。

○ ビデオの内容は、全部で七つの部分（ユニット）で構成されています。

はじめに 「虹は七色？」

「虹は七色だ」「リンゴは赤い」「月にはウサギ」などと考えるのは、日本では普通だが、外国ではそうとも限らない。物のとらえ方もいろいろだ。

第1話 「すみません」のコミュニケーション

「すみません」ということばは、おわびの場合だけでなく、お礼や呼びかけなどの場合にも使う。それぞれの場面や使い手の気持ちを理解しよう。

第2話 いきいき方言

同じ日本語でも地方によって異なる方言がある。思わぬ行き違いの原因にもなるが、一方では、その方言のその言い方でないと表現できない気持ちや物事もある。それぞれの人の故郷や方言への思いを理解しよう。

第3話 丁寧なことばはどんなときに？

ことばを丁寧にするのは、相手が年上や目上の人である場合だけでなく、相手との親しさやつきあいの程度によっても、ことばの丁寧さは変わる。

第4話 ほめるのは難しい

「相手をほめる」ということも、社会や文化によって意味が変わる。例えば「先生をほめる」ことも、日本と外国では別の意味合いや働きをする。

第5話 「あいまいなことば」の中に

「ちょっと」「いいです」など、一見あいまいなことば遣いにも話し手の色々な気持ちがこもっている。また、声の調子や話し方によっても、色々な意味合いを区別して表現することができる。

第6話 多様性を見つめて

その人が育った言語や文化、年齢や性別などによってことば遣いは様々な違いを示す。それぞれのことば遣いを理解するためには、お互いに相手の事情を思いやったり、その背景を想像したりすることが必要だ。

○ 話し合いのために - ビデオを話のきっかけにして (『ビデオ解説書』から)

このビデオを御覧になったあと、まわりの人たちと「相手を理解する」ということをテーマにして、言葉に関して気楽に話し合う機会を作っていただけると幸いです。そんなとき、例えば、次のようなことをヒントにさせていただくのはいかがでしょうか。

- ☆ 相手から「ありがとう」と言われるだろうなと思っていた(予測していた)のに、「すみません」と言われてしまって違和感を感じた経験はありませんか？

また、逆に「すみません」と言われるだろうなと思っていたのに、「ありがとう」と言われてとまどった経験はありませんか？

- ☆ ふだん使う方言の言葉、使わないけれど知っている方言の言葉のなかで、「この感じや細かな意味合い(ニュアンス)は共通語・標準語では言えない」と思う言葉はありませんか？

共通語の中によく似た意味の言葉では、どのような部分が言い表せないのかも話し合ってみましょう。

- ☆ あなたが学校や市民講座でパソコンの講習を受けたとします。
先生は、あなたより年上の人です。
家で一人で試していたときにはうまくできなかった操作が、その先生の上手な説明でとてもよくわかり、うまくできるようになりました。
うれしくなって、講習会のあとで先生に何かひとこと言おうと思います。
さて、あなただったら、なんと言うのでしょうか？

- ☆ 「いいですよ」という言葉も、気持ちによっていろいろな言い方があります。

(1) 他人からの頼まれごとを引き受ける

- ①喜んで引き受ける ②しぶしぶ引き受ける ③とまどいながら引き受ける

(2) 相手からの申し出を断る

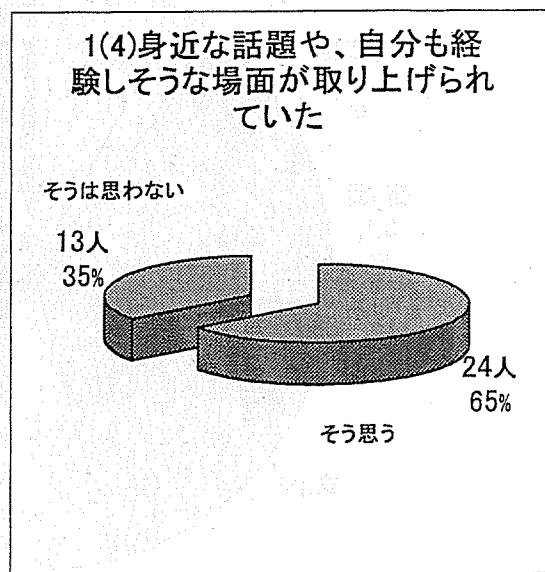
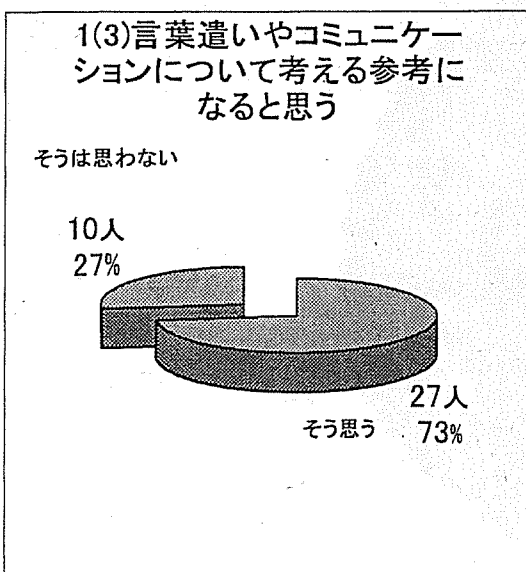
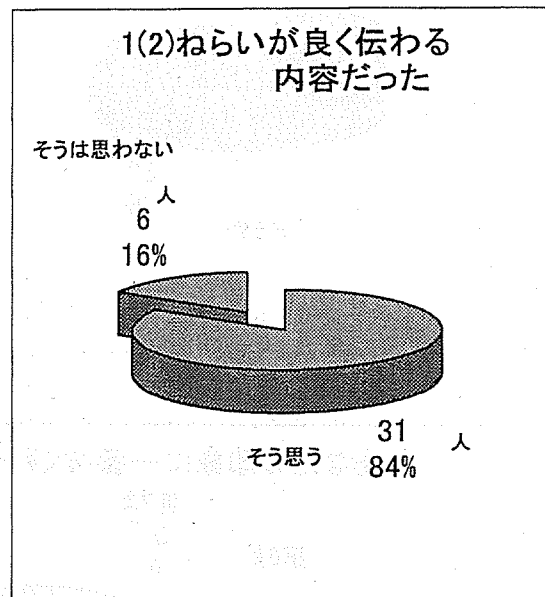
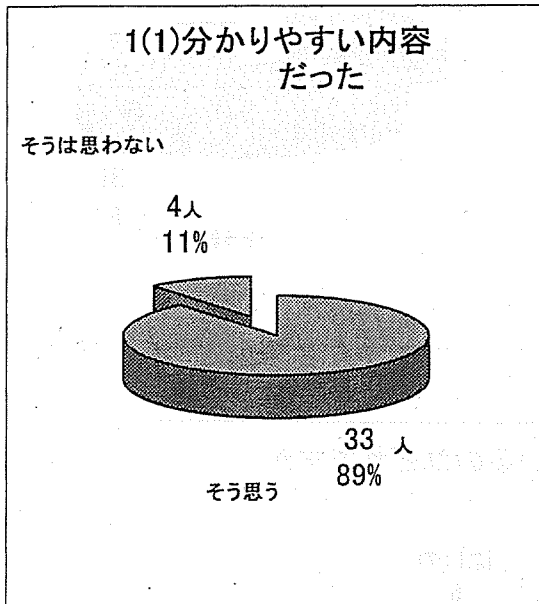
- ①迷うことなく言下(げんか)に断る ②遠慮して断る

ことばビデオ「相手を理解する」を見て アンケート集計結果

対象：熊本県立鹿本高等学校 2年生 英語コース生徒

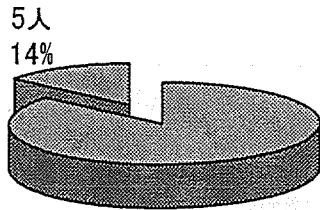
アンケート回収日：2002年7月16日

回答者総数：37名



1(5)不自然な場面やおかしな場面が多かった

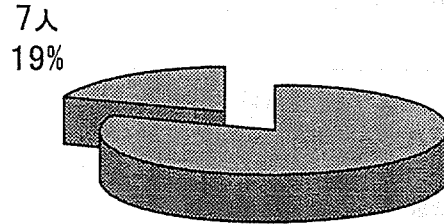
そうは思わない



そう思う
32人
86%

1(6)セリフや解説の言葉遣いはわかりやすかった

そうは思わない



そう思う
30人
81%

2 あなたの印象に残っているのはどれですか

